
秘密の関係

オカモトコウメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密の関係

【ΖΖtheid】

Ζ1550F

【作者名】

オカモトコウメ

【あらすじ】

「親友の好きな人と、関係を持つていい」「罪悪感とスリル。いけないことだと分かってる、でも止まらない…。主人公彩夏と梨沙、そして「奥村くん」を取り巻く、複雑な恋愛模様を連載します。

第一話（前書き）

たまに微口ります。

第1話

「ホントかっこいいんだからーー奥村くん、テニス部でしょ、だか
ら…」

大きな瞳をキラキラさせながら語るその姿は、まるでお人形のよつ
だ。

かわいいなあ、梨沙は。

「すつしに聴高し、髪の毛サラサラだし、とにかくカッコいい」

「うんうん」

「それに奥村君と同じクラスの朋ちゃんに聞いたんだけどね、
すげく優しいんだって。そんなの聞かなくても分かつてるけどー!
！それでね…」

どうやら梨沙は、好きなことに関しては口が止まらない人間なので、
それから2時間も「奥村くん」の話を聞く羽目になった。

けど、どれもこれも知つてゐる口ばかり。

ハツキリ言つてすまんないけど、梨沙は可愛いから許す。

そしてひとしきり話しあると、決まって最後に言つ。

「彩夏、いつものことだけど……協力よろしくねー。」

「ふふ。うん」

「でも純粋な梨沙。ひとを疑うこと、知らないんだ

「はあー、メールとかしてみたいたなあ」

そう呟く横顔に、罪悪感。

私と「奥村くん」は、

秘密の関係、
だから。

第2話

「ホントかっこいいんだからーー奥村くん、テニス部でしょ、だか
ら…」

大きな瞳をキラキラさせながら語るその姿は、まるでお人形のよつ
だ。

かわいいなあ、梨沙は。

「すつーじー聴高ーし、髪のモサラサラだし、とにかくカッコいい」

「うんうん」

「それに奥村君と回りクラスの朋ちゃんに聞いたんだけどね、

すごく優しいんだって。そんなの聞かなくても分かつてるけど
！…それでね…」

どうやら梨沙は、好きなことに関しては口が止まらない人間な
ので、それから2時間も「奥村くん」の話を聞く羽田になった。

けど、どれもこれも知つてゐる口ばかり。

ハツキリ言つてすまんないけど、梨沙は可愛いから許す。

せじてひとしきり話しあると、決まって最後に言ひ。

「彩夏、こつもの」とだけ……協力よろしくね。」

「ふふ。うん」

「じまでも純粋な梨沙。ひとを疑うこと、知らないんだ

「はあー、メールとかしてみたいなあ」

そう呟く横顔に、罪悪感。

私と「奥村くん」は、

秘密の関係、だから。

帰り道も、梨沙はずつと奥村くんの話をしていた。

バレないようこじなきゃ……と思いつ。

梨沙とあたしは親友だもん。

いつもやつて罪悪感を感じて、意外と嫉妬深い梨沙にビクビクしながら生活するのなんて、ホントはいやだ。

でも

～ピロリン

不意に携帯が鳴った。メールだ。

開いて、送り主を確認する。

そして、すぐに閉じた。

「メール？返さないの？返していいよ？？」

「あ……いや」

「え？ なに？ だれ？！ 彼氏？！ 笑」

興味を持ち始めてしまった梨沙に笑つて、まかしながら、

ホントはヒヤヒヤしていた。

閉じられた携帯。

送り主は、『奥村亮』だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1550f/>

秘密の関係

2010年10月10日02時18分発行